

教育学部数学科は、設立時より中学校や高等学校の教員養成だけではなく、他大学の数学科、数理科学科と同様に数学的な素養を必要とする社会の各分野で広く活躍できる人材の養成を目的としています。実際に基幹理工学部数学科と同様、教職に限らずに一般社会で活躍する卒業生が多く、また多くの優れた数学の専門家・研究者を輩出しています。したがって早稲田大学には2つの数学科があると考えてよいと思います。両学科とも現代数学の各分野を広く学習できるカリキュラムを設置しており、教員がそれぞれの特色をもった講義を開講しています。少人数制のセミナーを必修科目として設け、数学の楽しさ・面白さをすべての学生が理解できるようにしている点も両学科の特色です。

しかし、両学科のカリキュラムは同一ではありません。開講数を見ると基幹理工学部の方が若干多く、教育学部には数学教育関連科目が用意されています。いずれの学科も成績の優秀な学生に対しては大学院への推薦入学制度があり、教育学部の学生が大学院基幹理工学研究科数学応用数理専攻に進むこともできます。もちろん、教育学部の学生は大学院教育学研究科数学教育専攻への推薦制度もあり、実際に（推薦・一般問わず）どちらの大学院にも進学しています。

さらに、基幹理工学部では応用数理学科が新設され、数学とともに、工学、自然科学も深く学びます。基幹理工学部数学科では、応用数理学科と一体の教育研究を行い、その結果として電子情報系や自動車（機械）産業などを含む幅広い産業界への就職の道も広く開かれています。